

三六六五番

妹いもを思おもひ 眠いの寝ねらえぬに 暁あかときの 朝霧あさぎり隠こもり
雁かりがねそ鳴なく

三六六六番

夕ゆふされば 秋風あきかぜ寒さむし 我わ妹ぎも子こが 解とき洗あらひ衣ころも
行ゆきてはや着きむ

三六六七番

我わが旅たびは 久ひさしくあらし この我あが着ける 妹いもが衣ころも
の 垢あか付つく見みれば